

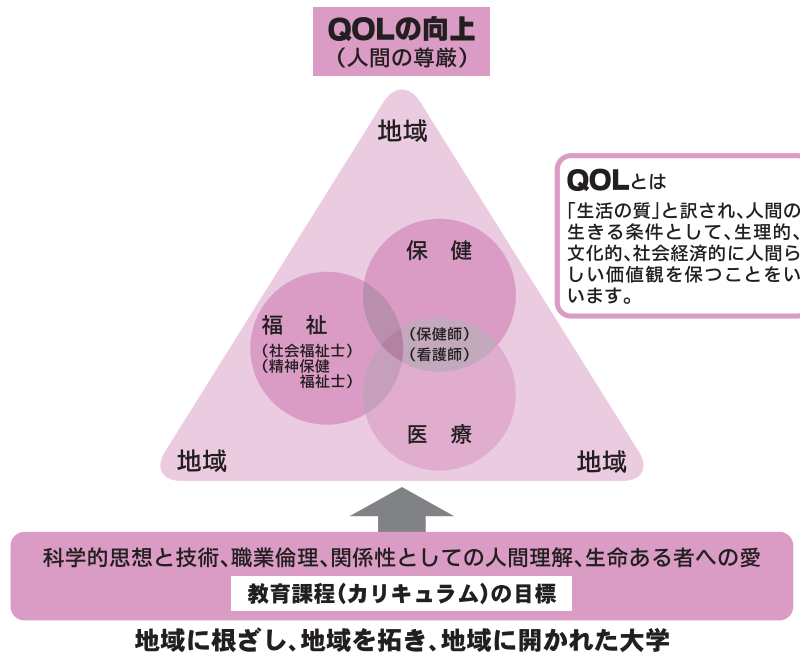
旭川大学保健福祉学部設立の理念

地域に根ざし、地域を拓き、地域に開かれた大学

2008年4月に開設した保健福祉学部は、地域住民に対する医療・保健・福祉の連携した包括的生活支援が望まれる今日、地域社会のニーズに応える専門的職業人の育成教育を行うとともに、その生活課題に分け入り、調査分析の結果から導かれる地域特性に適合した新しい保健福祉システムの研究開発を行おうとするものです。

本学部の設置は、従来経済学部がその大学院とともに経済学教育、経済分析研究を通して地域に貢献してきた本学が、多様でより深い内容をもって、「地域に根ざし、地域を拓き、地域に開かれた大学」を理念とする本学の地域社会における在り方を、確かなものにするを目的としています。

旭川大学保健福祉学部の基本的な考え



私たちの生きる社会は多様な人々がそれぞれの幸せを願って生きています。

誰もが健康で幸せな生活を営み、たとえ病気や心身のハンディキャップがあったとしても自分の力で自分らしく生きたい、という人間としての当然の権利を持っています。

しかし現実には、かつてない少子高齢化社会の到来等を背景として、人間としてのこの権利が揺らいでいます。痛ましい社会的弱者の問題がマスメディアに登場しない日はありません。

今求められるのは「困った人を助ける」という考え方だけではなく、「ウェルビーイング (well-being・健康で幸せな暮らし)」な社会の在り方です。そこでは障害や病気は誰にでも起こり得るし、誰もが年をとり老いてゆくものであるという考え方が大切になります。そのためには医療看護、保健、福祉の協働が必要になります。

旭川大学に開設した「保健福祉学部」は、このような人間の尊厳、生活の質 (Quality of Life = QOL) の向上を形作る、豊かな地域社会の創造に貢献できる人材を養成することを目的としてつくられたのです。